

若竹だよい

【私たちの願い】 ①よろこんで与える人間となろう ②いのちを大切に作る人間となろう
③こころ静かに考える人間となろう ④使命に生きる人間となろう ⑤規律ある幸せ喜ぶ人間となろう

法人の社会貢献事業 ①四国八十八カ所巡礼者無料宿泊&お接待 ②講演会・シンポジウム等

【巻頭言】

春を迎えるために

園長 宮竹 恒

暦の上では立春を迎えましたが、雪がちらつく日もあり冬の寒さが残る毎日です。

節分を終え、職員と女の子たち全員で協力してお雛様を飾りました。

丁度、宅配業者の方が荷物を届けに来られ、「立派な人形ですね。久しぶりに見ました」と話しされました。

女の子たちが協力して飾った直後だったので、子どもたちの事を誉められたように感じ、大変嬉しく思いました。

確かに学園で飾るようなお雛様は、場所も必要ですし、最近はあまり飾られなくなっていると思います。子どもたちが成長し、自分の子どもを持つようになった時、学園で体験したことを思い出して貰えれば幸いです。

さて、今年度も残すところわずかとなり、次年度に向けて準備の時期に入っています。

中学3年生は、4月に向けて進路の決定が最大の準備であり、各々の課題に向き合っているところです。他の子どもたちも学年のまとめに入っています。

お雛様を飾る子どもたちを見ながら、コロナ禍で春の準備を迎えるために何が必要なのか考えていました。

折りしも、北京オリンピックが開催中であり、厳しい練習と努力を積み重ねられた選手の方々の雄姿に感動するとともに勇気を与え

られていました。

その中で、非常に心に残る言葉がありました。1つは「挑戦」という言葉です。世界で初めての挑戦、場合によっては命がけの「挑戦」です。2つ目は「チームワーク」です。

団体競技は勿論、個人競技であっても日本という1つのチームが土台になっていると感じました。高い目標があって、「挑戦」もあり、その達成のために「チームワーク」が生まれていると思います。

春を迎える前に子どもたちにとっても学園にとっても新たな目標が必要であることをあらためて教えられました。

子どもたち一人一人が、新たな目標を持ち、4月を迎えることが出来るよう、担当職員を中心に、ご家族、関係機関の方々と協力し、準備しておくことが必要と考えています。

コロナ禍、環境の変化も多い中、子どもたちにとっては、日々が「挑戦」かもしれません。「チーム若竹」として、子どもたちの「挑戦」を支えていきたいと思っています。—了—





青峰・若竹学級だより 2月



学力テスト

中学生は学習の診断や学年末試験がありました。どの生徒も、自分が頑張ってきた成果が発揮できるよう、真剣に試験に取り組んでいました。中学校1年生にとっては初めての学習の診断だったので、1日に5教科の試験にとまどいながらも無事やり切ることができました。



節分 鬼は外! 福は内! !

2月3日に節分イベントがあり、日本の伝統行事について学びました。また、自身を見つめなおし、自分の中の心の弱さをどのように退治したらよいか考えました。その後、学校を襲った怖い赤鬼にアルミホイルで作った豆を投げつけ、無事学校から追い出すことができました。



バードウォッチング 五色台に飛来した鳥を観察

選択活動の時間に、希望者で五色台の山中に生息する鳥を観察しました。動きの速い鳥を探すのはとても難しく、双眼鏡のピントを合わせるのに悪戦苦闘しながらもヒヨドリやメジロ、コゲラなどを見つけることができました。子どもたちは、間近で小鳥が枝に止まってさえずる様子を観察でき、とても満足そうでした。



サッカーが上手になったよ

小学生は、体育の時間にサッカーの練習をしています。動画で学んだドリブルやパスのコツを意識し、練習を重ねるごとに全員が上達できています。



滝が凍る? 氷瀑を見たよ

五色台は平地よりも冷え込みが強く、明け方は特に寒く感じることが多いです。日見不の滝は凍りつき、氷瀑ができていました。児童は神秘的な滝の様子を見て、感嘆の声をあげていました。



サバイバルゲーム

準備をしている職員の姿を見て、沢山の子どもたちが積極的に準備を手伝ってくれました。強風のため、準備の段階で置いている段ボールが飛んでいくようなハプニングがあり、段ボールに重しを乗せ、車が傷つかないようにシートで覆うなどの工夫をしました。準備を手伝ってくれる子どもたちから楽しんでいる気持ちが伝わってきました。



安全面に配慮し、当たっても痛くないようなスポンジ製の弾を使用して行いました。相手チームの陣地に捕らえられている職員にタッチをすると、勝利というルールでした。

普段、室内で過ごす子どもたちも笑顔を見せ、楽しそうに参加していました。色々なタイプの銃があり、どの子どもも目をキラキラ輝かせながら選んでいました。男女混合のチームを組んでおり、チーム内で話し合い、作戦を練ってから対戦していました。作戦を話し合う時に、普段関わりが少ない子ども同士でも真剣に意見を聞いている様子がありました。



障害物に身を隠して、相手チームの状況を見て慎重に攻め込んだり、全力で走って攻め込んだりしている子どもたちもいました。見ている側も盛り上がり、自然と大きな声援ができるほどの盛況ぶりでした。



サバゲーを終えた後に、全員で協力して片付けることができました。子どもが落ちた弾を拾って職員に渡し、ありがとうと伝えると嬉しそうにしていました。片付けも楽しむことができたように感じました。



午後からも多くの子どもがサバゲーをしたいと、職員に要望があり、再度多くの子どもたちが集まって楽しんで遊ぶことができました。今回は、子ども同士で対戦をしていましたが、職員も交じって行ってみたいと思いました。



節分

2月行事



3日	節分
6日・19日	DVD鑑賞
14日	バレンタイン
20日	誕生日ケーキづくり
23日	防災食づくり

大きな恵方巻が子どもたち全員に渡されました。非常に大きなサイズなので、驚いた表情をしていました。今年の方角は、北北西になるそうなので、その方角を向いて恵方巻を食べました。一斉に同じ方角を向いている様子は、一体感があり、非常に良い雰囲気でした。また、大人でも一つでお腹いっぱいになる量でしたが、おかわりをする子どもがおり、今年も元気で健やかに過ごしていけそうだなと感じました。

在籍人数

令和4年3月1日現在

区分	県内(人)	県外(人)	合計(人)
小学生	5	2	7
中学生	13	1	14
合計	18	3	21



昼食後、職員が鬼に扮して各フロアを回っていきました。園生が投げる豆は、袋に入った物をそのまま投げるようにして、衛生面にも気を遣って行いました。園生は鬼に対してソーシャルディスタンスを守っているのか、騒がしくなる様子も無く、静かな豆まきが行われていたように感じます。「鬼は外、福は内」ではなく、「コロナ外、福は内」という掛け声を聞くとコロナウィルスが生活に大きく影響を与えているものだと深く感じました。

編集後記

寒さが厳しくなっておりますが、子ども達の元気は増すばかりで賑わっています。今年も福を呼び込むため恵方巻きを子ども達と一緒に食べました。

井上

第335発行

〒761-8004 香川県高松市中山町1501-192

TEL 087-882-1000 FAX 087-882-1160

ホームページ <http://4on.or.jp>

Eメール wakatake@4on.or.jp

編集兼発行者 若竹学園 編集委員

発行責任者 宮竹 恒

